



「新しいスタートに希望を持てる 有意義な節目に」

2月16日の「6年生ありがとうの会」。各学年の出し物やゲームで楽しく過ごしたフィナーレには、6年生の「いのちの歌」の合唱と心和む5年生の演出があり、在校生と教職員は「優しくて頼りがいのある6年生」の旅立ちの日が迫っていることをしみじみと感じました。6年生は、終始下級生を温かく見守り、まっすぐに思いを受け止めていました。一体感のある感動的な会でした。



6年生を不安にさせる「不安隊」の2人組が出現！ 応援メーターが0（ゼロ）になってしまいました。各学年の出し物で元気をチャージ！



4年生 メディシングボール
協力する4・6年生を他学年が温かく応援しました。リーダーの仲間入りをする4年生、引き継ぎ式も、大変立派でした。



3年生 ダンス・長なわ跳び
かわいいダンスに手拍子をして応援する優しい6年生。初めて一緒に跳ぶ8の字跳びに、6年生も必死になってくれました。



2年生 玉入れ
2年生手作りの玉を投げ入れます。6年生はさすがの中します。元気がかわいい2年生のお祝いの言葉も立派でした。



1年生 短なわ跳び・校歌
ペアのお兄さん・お姉さんと短なわの二人跳びをしました。体育館に校歌が響いたのも久しぶりで、感激しました。



5年生 爆弾ゲーム
全校児童参加型のゲームを考えられました。爆弾は「不安隊」の2人の手元で爆発！不安隊はいなくなったと思ったら……



6年生 ダンス・合唱
どの子も堂々とカッコよく「怪獣の花唄」ダンスを披露してくれました。「いのちの歌」の合唱は心にしみて思わず涙した在校生も。

各学年の出し物と6年生からのダンスと合唱で、応援メーターが満タンになってほっとしていたところに、大暴れしていた不安隊が「ぼくたちも神戸小みんなの仲間に入れてほしい。」としおらしく再登場し、みんなを驚かせます。「何であんなことをしたの？」と5年生が聞くと「6年生がいなくなったらどうしようって、僕たちが不安になっちゃったんだ。」と微笑ましい答えが返ってきます。

……これが5年生の考えたストーリーです。

また、その日の昼の放送では、神戸小クイズの最終日でした。第1問が「6年生全員が一番完璧にできていることは何でしょう。」答えは「あいさつ」でした。問題は全部で5問あって、その答えの頭文字をつなげると「ありがとう」となるという音楽・放送委員会の粋な演出でした。5年生の心尽くしの企画運営に感心しました。

神戸小学校を創っていくのは子供たちです。そして、それぞれの発達段階で活躍しながら、いろいろな

立場の人を思いやり認め合う異学年交流の大切さを教えてくれた会でした。今年度も残すところ14日です。新しいスタートに希望の持てる有意義な節目にしたいと思います。

